

普及活動情勢報告（平成27年2月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

第2回新規就農者基礎講習会を開催



園芸連内部の荷捌きに見入る参加者

J A土佐くろしお管内の就農5年以内の新規就農者を対象とした視察講習会を1月26日に開催し17名が参加しました。

2回目となる今回は、高知県園芸連の園芸流通センターで「自分たちが生産した野菜等がどのようなルートで流通・販売されているのか」、農産物安全検査センターで「安全安心の取組として、残留農薬の自主検査について」、農業技術センターで行なわれている「環境制御技術の研究」について学びました。参加者からは「園芸連の役割や輸送コスト合理化への取組が分かった」「出荷前の農薬検査の仕組みは凄い」「環境制御技術についてもっと時間をかけて学びたい」などの感想がありました。今後も、生産から流通・販売まで総合的に学べる講習会を開催していきます。

「高知の花」展示商談会 in 東京 2015



見学者で賑わう展示会場

1月26日、TKP ガーデンシティ品川で「高知の花」展示商談会が開催され、須崎管内からは、(有)笹岡花卉農園、JA 土佐くろしおが出展しました。当日のブース作りや、来場者に各品目のPRを行う支援を行いました。

来場者は、市場関係者をはじめ、花屋、デザイナー等がおり、花の動向や、使い方の提案、出荷時期などについて情報交換ができました。JA 土佐くろしおの重要品目であるクジャクアスターは、日持ちの良さには定評ありましたが、ボリュームはそんなにいらないうという声も多くあり、今後の参考になりました。

各品目のニーズを把握しながら、栽培面の支援も継続します。

J A土佐くろしお露地ししとう部会決算総会を開催



J A土佐くろしお
露地ししとう部会決算総会

1月27日、J A土佐くろしお露地ししとう部会決算総会が開催されました。

近年、天敵の利用が進んできた露地ししとう部会ですが、土着天敵の捕獲が難しいことや、早期放飼が困難など、土着天敵の効果的な利用にはまだまだ課題があります。そこで、今年度試験を行った、天敵温存植物を用いた放飼方法について情報提供を行いました。生産者からは「この方法なら放飼しやすい、次作では実践したい」といった声が多く聞かれました。

今後も土着天敵をより効果的に利用できるよう支援を行っていきます。

水稻の作業受託をする組織や個人を集めて情報交換会を開催



作業受託組織間で連携を検討

J A土佐くろしお管内で水稻の大規模作業受託を行なっている組織や個人を対象に情報交換会を1月29日に開催し、集落営農組織（2組織）、個人（2人）、関係機関等、計18名が参加しました。国や県の施策の説明、補助事業への要望、活動上の課題等について情報交換を行い、今後、増加が見込まれる作業委託について、組織間で連携できないかを検討しました。参加者からは「非効率的な水田も多く、簡単に規模拡大できない」「補助事業は規模拡大や機能アップが要件で使いづらい」「経営的にはもっと受託したい」等の意見がありました。また、J A出資法人（4月設立）による作業受託も始まることから、このような情報交換会を今後も振興センター主催で開催することにしました。

中土佐町久礼小学校での津野山産ユズ出前授業を実施



ユズの刺に注意！

JA 津野山と連携し、1月30日に中土佐町久礼小学校（4年生、31名）でユズの出前授業を実施しました。津野山でユズ栽培を始めてから今日までの取り組みやカミキリムシ等の害虫の紹介、さらには、ユズの木やトゲに触れた体験型授業を行いました。講師の軽妙な語り口により、生徒さんとの双方向の授業が行われ、「ユズのトゲ硬くて触るといたい」といった声や「ユズが黄色になるのにどのくらいかかるか」といった質問が出るなど大変良い授業となりました。今後もこうした機会をとらえながら、JA と連携し青果物等の食育に取り組んでいきます。

中山間地の農業の維持を学ぶ～津野町集落営農先進地視察研修（岡山県）～



視察先との意見交換

水稻中心の集落営農組織の先進的な活動について学ぶため、津野町内の農業者17名と関係機関3名が2月6日に岡山県の（農）潮営農組合を視察しました。潮営農組合では、農地・水・環境保全向上対策事業やWC S栽培に取り組みながら集落の農地を次世代に引き継ぐために活動をしているという話を聞き、参加者も自分の集落の今後について考えるきっかけになりました。また、26年1月に法人化したことから、会計面や法人の運営についての質問も交わされました。今後も津野町での集落営農組織化を推進するとともに、法人化についても可能性のある組織に対して支援していきます。

直販所向け果実の剪定講習会を開催（キウイフルーツ剪定講習会）



雪の降る中、沢山集まりました

津野町内の直販所で販売され、栽培ニーズの高いキウイフルーツについて、初めての剪定講習会を2月5日に開催しました。当日、雪が降り寒さ厳しい中、参加した26名の生産者は、キウイフルーツの樹形をつくっていくための剪定方法について、熱心に勉強しました。今後も、可能な限り生産者のニーズに応えていくため、J Aや津野町と連携し、栽培ニーズの高い果樹品目の講習会を実施していくことにしています。

梶原町影野地・大野地地区集落座談会を開催



距離があるのは背もたれがいるから
発言は積極的でした

2月6日、梶原町影野地地区において、集落営農に関する勉強会を開催し、地区の生産者8人とJA津野山、町が参加しました。

当地区では初めてとなる勉強会で、集落営農の取り組み、事例などを説明しました。意見交換の時に「見える範囲内でも水田は荒らしたくない」「袋式コンバイン収穫は、体力的に限界だ」「賛同できる者から集落営農を始めよう」等、集落営農組織に対して意欲的な意見も聞かれました。今後、集落のいろいろな場で住民の声を拾うことや組織化を検討する座談会等により集落営農組織化を進めます。

中土佐町「神母野営農組合」が総会を開催



水稻の協業栽培に取り組みます

神母野営農組合の平成26年度総会が、組合員11名が参加して2月7日に開催されました。今年度は町内の他組織との連携もあり作業受託が増加しました。また、食農教育体験交流事業を活用して消費者交流会を開催するなどの活動が報告されました。

総会では、今後も作業受託を増やしていくにはどうするかなどについて話し合われ、組織の将来のために次年度から協業栽培に取り組む事が決定しました。

今後は、受託の拡大を引き続き支援するとともに、米の販路開拓も含めて協業栽培を支援していきます。

食品表示を学ぶ～津野町ふるさとセンター食品表示勉強会～



消費者のために適正な表示を！

津野町ふるさとセンターにて、農産物直販所の職員など10名を対象に食品表示勉強会を2月12日に開催しました。JAS法における食品表示について、生鮮食品と加工食品の違いや、一括表示に必要な項目などについて説明しました。参加者からは、イベントでの営業許可や香り米の表示などの質問もあり、食品の種類によって様々な決まりがあることを理解しました。

3月には生産者への食品表示の研修も予定されており、引き続き直販所の食品表示が適正に行われるよう支援します。